

専守防衛、大丈夫か？

長谷川 榮一

武蔵野大学国際総合研究所所長



1952年生まれ。東京大学法学部卒。元中小企業庁長官。第一次安倍政権で内閣広報官、第二次安倍政権で内閣総理大臣補佐官兼内閣広報官。現在、武蔵野大学に勤務。他に東大公共政策大学院客員教授。ブラックストーン・グループ・ジャパン、ボストンコンサルティンググループ勤務。飯田グループホールディングス(株)社外取締役。著書に『石油をめぐる国々の角逐』、『首相官邸の2800日』。

この春には、例年に比べてソメイヨシノが早く開花し、途中の雨にもかかわらず枝に留まり、幾日も華やいだ日々を過ごされた方も多いと思います。私自身も、4月冒頭に四国3県と淡路島、福山市を訪ね、桜に覆われた風景を楽しむ機会に恵まれました。多くの外国人観光客が各地に戻り、華やぎ、賑わいが目立つのは嬉しいことです。

年度が改まり、MIGA研究陣も新たになりました。今年度から、山内昌之特任教授が客員教授に、川口順子客員教授がMIGA名誉顧問となりました。

この間も研究活動には休みがなく、ロシアによるウクライナ侵攻も続いています。林良造前所長が、世界の秩序が台無しにされる中で、世界を見る視座を整理し、今後をどのように展望するかをMIGAコラムに掲載しています。コラムでは、それに先立ち、岡部直明研究主幹が、ウクライナ侵攻により大きな影響を蒙っている欧州、EU、さらには日本国の対応の仕方について、体系的に著しています。

これも3月末ですが、サイバーセキュリティ分野で高見澤将林研究主幹が、中島一郎研究主幹とともに、官民双方の有識者の参加を得ての研究会を開き、研究をリードしています。いずれも、個人や個々の組織にとっても日本国に

とっても、重大なテーマであり、かつ、日々動きのある目の離せない分野なので、本年度も、引き続きMIGAの重要研究テーマです。

デジタルビジネスに関しては、浜口友一客員研究員、三谷慶一郎客員教授が体制を新たに、研究を進める計画です。

コーポレートガバナンスに関する研究では、藤田純孝顧問が、これまで積み上げてきた成果を総集し体系化する計画を持っています。この分野では林前所長が研究をさらに深め、かつ広める考えをお持ちです。アーロンソンさんは、引き続き米国から参加します。

中東に関する研究では、本年になってから、山内教授、中川恵研究主幹が、メディアでも広く登場している東野篤子筑波大学教授、廣瀬陽子慶応義塾大学教授を研究会に招き、ウクライナ侵攻、ロシアの動きによる影響も視点に加えてくれました。

医療分野でも、2月から加わってくれた松山幸弘研究主幹、4月から加わってくれた大林尚所員が、早速に研究活動を本格化する予定です。松山さんは、既に特別養護法人の財務基盤の分析をコラムで掲載しています。大林さんは、年度途中からではありますが、武蔵野大学の学生に客員教授として授業をする計画です。

伊集院健夫さんは、アジア太平洋の新秩序というテーマで研究を進めますが、経験が豊富な朝鮮半島に関する成果が期待されます。他にも、研究が具体化したところで、その都度、お知らせして参ります。

事務局スタッフも、大川織江さんが、前年度同様、取りまとめ役を続けますが、新たに、井口美香さん、レストレンジ美沙子さんが加わってくれました。

昨年は、ロシアによるウクライナ侵攻と国連安保理での拒否権頻発、年後半における米国連銀の急速な金利の引き上げ、習近平主席の第三期目に入る中国の新体制の発足、同時に長引く不動産問題、目に見えていないだけで跋扈するサイバー攻撃など、戦後、世界が築き上げてきたルールや秩序が次々に崩れていく年となりました。通商分野では、地球温暖化対策が優先される中で、それ以前から内外無差別やMFNといった原則、さらには「何が貿易の自由なのか」という基本との整理が課題のままです。さらに経済安全保障の確保という要請が先鋭化し、これまたWTOルールとの整理は十分かも疑問なしとしません。安全保障が影を強く落とすので、通商ルールもglobalではなくlike-mindedな国々の間だけのものになっていくのでしょうか？そして、それは交易の実体や価格引き上げにどう影響していくのか？原油、ガスや食料といった全人類にとっての必需品にも関わるだけに「実態の変化を踏まえながら、新ルールをこれから作り上げていく」と悠長に構える訳にもいかないでしょう。

「国際協調や自由貿易を優先する」、「武力行使により他国を侵略した場合には国連を挙げて対応する」など、従来の前提が通用しなくなっています。ですから、日本国民の根幹にかかわる問題について、改めて前提から考え直すべきです。例えば、日本の安全保障に関して、与党国会議員の中にさえ「日本は専守防衛に徹するのだから」を根拠に、「敵地攻撃力を持つべきでない」という論が散見されます。「専守防衛」という時、誰からの、どのような攻撃が日本に降りかかってくるのかとの想定が木目細かく練られているのでしょうか？「我が国は専守防衛だから」というフレーズで思考停止していないのでしょうか？「ウクライナがロシアに対してしていることは専守防衛ではないのですか？でも、多くの人々が犠牲になっていますよ」と問いたくなります。抑止力を十分に強めるべしとの観点から論じてほしいものです。「自分自身の、そして自国の生存、安全、安寧、福利向上はいかにしたら確保されるのか？」と常に問いながら、仮説の投げかけ、議論、発信、提案が求められる年になりました。本年度もどうぞよろしくお願い致します。